

茨木市立東中学校 全国学力・学習状況調査分析結果

令和3年10月作成

【今年度の結果と取組みについて】

○●国語●○

(領域ごと)

- | | |
|------------|-------------|
| ①話すこと・聞くこと | 良好な結果であった |
| ②書くこと | 良好な結果であった |
| ③読むこと | 概ね良好な結果であった |
| ④言語事項 | 良好な結果であった |

(問題形式)

- | | |
|------|-------------|
| ①選択式 | 概ね良好な結果であった |
| ②短答式 | 良好な結果であった |
| ③記述式 | 良好な結果であった |

(無解答率) 良好な結果であった

(その他)

- ・もっとも正答率の高かった設問 … 4ー①
- ・もっとも正答率の低かった設問 … 4三
- ・もっとも無回答率の高かった設問 … 3四
- ・もっとも無回答率の低かった設問 … 1一、1二

分析

- ・全体的に無回答が少ない。間違っても書こうとする積極性が見られた。
- ・漢字や語句を答えるなどの基本的な知識を問う問題に対する正答率が高い。
- ・自分の考えを表現するような記述式の問題の正答率が低い。
- ・敬語を正しく使用できるかを問う問題に関して、正答率が低めだった。
- ・総合的に文章を読み、問題文を理解した上で、正しく答える関連の正答率が低めであった。

〈今後に向けて〉

- ・積極的に頑張ろうとする生徒が多いので、その姿勢を大切にしていく。
- ・問題文の読み方、丁寧な読み方を再度確認する。
- ・敬語を含め、文法の復習を再度行っていく。
- ・自分の考えを表現する機会をより多く作っていく。

○●数学●○

(領域ごと)

- | | |
|--------|-------------|
| ①数と式 | 大変良好な結果であった |
| ②図形 | 大変良好な結果であった |
| ③関数 | 良好な結果であった |
| ④資料の活用 | 概ね良好な結果であった |

(問題形式)

- | | |
|------|-------------|
| ①選択式 | 概ね良好な結果であった |
| ②短答式 | 概ね良好な結果であった |
| ③記述式 | 大変良好な結果であった |

(無解答率) 良好な結果であった

(その他)

- ・もっとも正答率の高かった設問 … 1
- ・もっとも正答率の低かった設問 … 8(3)
- ・もっとも無回答率の高かった設問 … 8(3)
- ・もっとも無回答率の低かった設問 … 3

分析

- ・全体的に無回答が少ない。間違っても書こうとする積極性が見られた。
- ・基本的な計算問題、その応用問題に関して、正答率が高い。授業で行った学習内容の定着、応用力が身につけている生徒が多いことがわかる。
- ・資料の示す傾向に分析し、考察する問題に関して、正答率の低さが顕著だった。
- ・グラフの内容を正確に読み取ることが課題である生徒が多い。また、読み取れていても、考えた内容を、正しい根拠を正確に示して、説明することが課題の生徒が多い。

〈今後に向けて〉

- ・生徒同士で、教え合いをしている姿が多く見られる。数学が苦手な生徒が力をつけていくことができている。教える側の学力向上にもつながっている。さらに教え合いを促していく。
- ・資料やグラフの見方の再確認を行う。
- ・説明問題では必ず根拠を示すことを再確認する。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析

- ・平成 28 年度から平均正答率が上昇傾向にある
 - 補習やテスト前の放課後学習会などで学力低位層のフォローに力を入れてきたからだと考えられる。
 - 進路通信により、進路情報をこまめに提供してきた結果、学習への関心が高くなり、過程学習がより進んだと考えられる。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

- ・学力高位層の数字がゆるやかに伸びてきている。
- ・低位層が前回より若干上がったが、学校全体を見れば、減少傾向である。
 - 補習やテスト前の放課後学習会などで学力低位層へのフォローが結果にあらわれている。
 - 教え合いの推進により、教える側、教えられる側の両方の学力向上につながっている。

○●取組み●○

学力向上に関する取組み

- ・授業力向上研修
 - アクティブラーニングについて研修した。東中学校の理念、生徒につけさせたい力「1. 自ら動く力 2. 自らつながる力 3. 自ら学ぶ力」を確認。
- ・授業目標設定シート書き&交流
 - 東中学校での授業における「理念」と「生徒につけさせたい力」を意識するため。
 - 教科内で目標や目標に伴う成果や課題、困っていることを交流し、刺激を受け、各々がさらに授業力向上を図っていくため。
- ・U39
 - 定期テストで39点以下の生徒をテスト前や長期休みで補習に呼ぶ。学習の仕方をレクチャーする。
- ・授業交流&教科交流
 - 教科内で目標や目標に伴う成果や課題、困っていることを交流し、授業力向上につなげる。
- ・姿勢研修
 - 姿勢の観点から学力向上について考えてみる。